鼎談「企業の防災対策」（首都直下型対応・広域対応）

災害に強い社会インフラ作りを

釜IHI相談役、北原三井不動産副社長、有馬ミューチュアル・エイド・セオリー代表取締役

平成三〇年もあと一カ月あまりとなった。今年を振り返ると七月豪雨、相次いだ台風上陸、北海道胆振東部地震の発生など、自然災害の脅威を、より身近に感じる一年だった。そこでこれら自然災害に対する備えについて、三井不動産副社長の北原義一氏、IHIの釜和明相談役、災害支援プロジェクト「ガーディアン72」を手がける㈱ミューチュアル・エイド・セオリーの有馬朱美代表取締役にお聞きし、企業が過去の経験から得たもの、最新の取り組み、そして生活者として防災に対する意識をどうもつべきか、今後の指針として紹介する。

三井生命が企業を「つなぐ」

――今回の鼎談に至ったNPOで、私はそこの会員で広報を担当しておりました。その際にこの定特定非営利活動法人経営支援NPOクラブに参加しておりました。この組織は元三井物産の副社長だった大貫義昭氏が二〇〇二年に立ち上げられた経緯を教えていただけますか。

有馬　私はもともと認NPOを支援していた三井生命さんとのご縁をいただきました。

その頃私は地域活性化の仕事に取り組んでいましたが、これらのテナントの事業継続もとても重要です。これが確保できなければ、東京の都市機能は麻痺してしまいます。

東日本大震災発生時、東京の震度は最大五強でしたが、それでもあれだけの帰宅困難者が発生しました。これを回避しなければならないということで、震災後この七年半で我々が進めてきているのが、大規模災害などで系統電力の供給が途絶えた場合でも、地域の最大消費電力の五〇%を確保することを目指した自分発型エネルギーインフラの構築です。

電力が途絶えると、様々なシステムがダウンし、都市機能が麻痺してしまいます。それを回避するため、ある一定地域で都市ガスによる発電を自ら行い、電気供給と緊急時の廃棄を利用した熱供給を行うプロジェクトに取り組んでいます。

東京ガスさんと組んだ第一弾が、来年の四月から日本橋にデビューします。また、IHIさんの協力も得て豊洲エリアでも取り組みを進めており、続いて八重洲でも導入を予定しています。今後、日比谷をはじめ、都心の高度業務地区に関しても、自立分散型のエネルギーインフラの整備を進めていきたいと考えています。同様の活動を、東京の都市機能を維持するために、ご理解いただいて、防災対策に先進的な取り組みをされている三井不動産の北原副社長にお聞きしたいと思います。

・エイド・セオリーは災害支援プロジェクトをビジネスとして展開しているとのことですが、防災支援システム研究所の理事として、どのような役割を担われているのでしょうか。

釜　まずは有馬さんとの出会いですが、一年に一度か二度、長崎市長が上京されて、三〇名ほどの長崎市の現状についての説明や参加者との交流を図るという機会がありました。そこで有馬さんと知り合い、災害支援プロジェクトへの協力を依頼されました。

私もIHIはインフラ関連、あるいはエネルギー関連の企業ということで、中期ビジョンの中でも「二一世紀の地球と人類に豊かさと安全、安心を提供する企業になりたい」ということを目標としております。また東日本大震災では、豊洲の本社ビルに二〇〇人ほどの従業員が泊まりました。福島県相馬市にある飛行機のエンジンの工場では幸い津波の被害はありませんでしたが、工場の設備が大きな被害を受けました。その際に皆様方のいろいろな支援を受けて、やっと一カ月後に工場内の電気が完全に復旧し、再稼働させることができたという経験があります。

今回、有馬さんのプロジェクトはとても意義のあるものだと思い、私のこれまでの経験談が生かせるのではないかという事で、理事の就任依頼を引き受けました。長年経営に携わっていた経験を含め、いろいろな人や企業とのお付き合いもありましたので、いろんなご支援やお願いをする時にも役に立てるのではないかと思っています。

三井不動産㈱代表取締役副社長執行役員　北原義一氏

――三井生命では強みとしている中小企業への支援や、中小企業三井グループ各社をつなぐ活動として「ビジネスキューピット」を積極的に展開されていますね。今回の鼎談はそのご成果の一つでもあるわけですね。

有馬　はい。その「ビジネスキューピット」という新しいプロジェクトの中でいろいろな企業についていただきました。

そこで釜さんを通じて、防災対策に先進的な取り組みをされている三井不動産の北原副社長にお話しを伺ったが、防災支援システム研究所の理事として、どのような役割を担われているのでしょうか。

釜　まずは有馬さんとご縁をいただいたことです。

――釜さんは防災支援システム研究所の理事として立ち上げました。

――釜さんは防災支援を目的とする支援部会を設けるためのサポートをされていらっしゃいます。

――三井生命は強みとしている中小企業への支援や、中小企業三井グループ各社をつなぐ活動として「ビジネスキューピット」を積極的に展開されていますね。今回の鼎談はそのご成果の一つでもあるわけですね。

有馬　はい。その「ビジネスキューピット」という新しいプロジェクトの中でいろいろな企業についていただきました。

――三井生命では強みとしている中小企業への支援や、中小企業三井グループ各社をつなぐ活動として「ビジネスキューピット」を積極的に展開されていますね。今回の鼎談はそのご成果の一つでもあるわけですね。

有馬　はい。その「ビジネスキューピット」という新しいプロジェクトの中でいろいろな企業についていただきました。

そこで釜さんを通じて、防災対策に先進的な取り組みをされている三井不動産の北原副社長にお聞きしたいと思います。

――三井不動産㈱代表取締役副社長執行役員　北原義一氏

――ご紹介いただきました北原です。

――三井生命では強みとしている中小企業への支援や、中小企業三井グループ各社をつなぐ活動として「ビジネスキューピット」を積極的に展開されていますね。今回の鼎談はそのご成果の一つでもあるわけですね。

有馬　はい。その「ビジネスキューピット」という新しいプロジェクトの中でいろいろな企業についていただきました